

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名： 笠置町

1. 平成26年度 行財政改革推進計画について【総括表】

計画の概要等	背景	本町は、過疎化が進むとともに自主財源である町税収入は一般財源の2割程度しかない。そのため交付税に頼りきった財政運営となっている。また、社会資本の整備を行うに当たっては、地方債等を財源とせざるを得ず、財政硬直化の大きな要因となっている。		
	必要性	今後も税収の大幅な増収を見込むことが難しいうえ、少子高齢化に伴う住民ニーズの多様化・高度化に対応するためには、持続性のある財政力の維持が必要であり、経常的経費の更なる見直し等経費削減に努め、財源確保に取り組むとともに行財政改革を継続して推進していく必要がある。		
	概要	平成23年度に策定した第3次笠置町行政改革大綱を基に、事務事業の見直し、職員の資質向上、行政サービスの水準の確保及び効率的な財政運営等の取組を進め、一層の行財政改革を推進するとともに、各種財政指標の改善に努めることを目的としている。		
	効果	本計画によって、施設等の長寿命化対策を始めとする様々な行財政改革の取組を一層推進することにより、財政負担の軽減を図り、持続的、安定的な財政運営の構築を図る。		
平成26年度行財政改革推進計画に伴う事業実績による行革効果について				
事業分類	事業名・実施項目	取組実績の概要	主な実績数値（出来高数値等）	行革効果（単位：人・千円等）
小規模市 町村支援	施設等修繕事業	庁舎をはじめとする公共施設や公用車等については、年々経年劣化が進み安全かつ快適に使用し続けるためには、メンテナンスや修繕等が必要となる。そこで、法定点検項目や機器設備等の庁舎管理上必要な点検等を実施するなかで実態把握に努め、経年劣化を最小限に留めることにより、長く安全に使用することができる。つまり、効果的な施設等の維持管理を行うことにより施設の改修を遅らせ、施設に係る総合的な費用の抑制を図ることができ、結果歳出抑制を図った。	庁舎電話工事、福祉施設雨樋等修繕、産業振興会館昇降機修繕・ガス湯沸器修繕、消防ポンプ修繕 他	9,606千円
	町道・林道維持事業	地域生活に密着した町道・林道については、利用していくことで年々経年劣化等が進みますが、常に良好な状態に保つように維持・修繕し、一般交通に支障のないように努めなければならない。本年度では、林道横川線路面陥没等修繕工事や道路側溝等小修繕工事等を実施し、安全性や快適性等の確保をはじめ、災害の軽減及び長期的な維持管理経費の縮減を図った。	・林道三国越線・切山線除草業務 三国越線：(L=2.382km、A=4,764㎡)、切山線：(L=1.977km、A=3,954㎡) ・林道横川線除草及び側溝・路面清掃業務 除草：(L=4.273km、A=8,546㎡)、路面清掃：(L=4.273km、A=4,273㎡)、側溝清掃：(L=300m+L=127m(横断))=427m ・町道笠置～有市線他道路除草工事 除草(機械)A=1762.1㎡、除草(人力)A=1252.8㎡、側溝清掃L=350.0m ・町道羽根田2号線道路除草工事 除草(機械)A=811.0㎡、除草(人力)A=2,045.0㎡、側溝清掃L=116.0m、集水桝清掃6箇所 ・町道切山線路面・側溝清掃及び除草工事 除草(機械)A=80.0㎡、路面清掃A=60.0㎡、側溝清掃L=50.0m 他	1,224千円
	町道・林道維持事業(地元管理)	飛鳥路区と町内を連絡する潜没橋は木津川の増水により年間4～5回通行止めとなる。通行止めの際の迂回路として本町道が重要路線となる。本路線は、幅員狭小であり草木が繁茂すると通行に支障を来す。このような状況に陥る前に年に2回、地元区で除草及び町道の維持管理を実施し、安心・安全な通行を図った。	町道有市柳生線除草作業 2.2km×1.0m	40千円

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名： 笠置町

	町営住宅管理事業	町内にある公営住宅については、建築後相当年数が経過し老朽化が進んでいる。しかし、新たな建て替えや大規模修繕を行うには財政負担が大きすぎるため、住宅の実態把握に努め、安心・安全の観点から必要な維持修繕を進めるとともに、予防的な改修を進め施設の長寿命化と長期的な経費の削減を図った。	町内にある町営住宅のうち、奥田団地修繕4戸・改修5件、有市団地修繕6戸・改修7件で和室床改修、風呂釜改修・ドア、廊下修理、風呂ドア修理及び手すり設置等の実施	9,964千円
	運動公園共同管理事業	地域住民が、子どもから大人まで生涯にわたってスポーツを親しむための施設として設置している運動公園の維持管理をNPO法人へ委託することにより、長期的な施設の維持管理運営費の削減を図った。	管理委託料 1,490千円	5,040千円
広域連携 事業支援	笠置小学校施設長寿命化事業	建築後約30年目を迎える笠置小学校は、年々経年劣化が進み安全かつ快適に使用し続けるためにはメンテナンスや修繕等が必要となる。本年度ではプール機械室の修繕並びにタイルの張り替え等実施し、施設の長寿命化を図るとともに、長期的な経費の削減を図った。	・小学校グラウンド整備1,700㎡、小学校校舎階段・床修繕44.5㎡及び小学校ガスメータ2個及び集合装置2台他修繕	3,237千円
	相楽中部消防組合はしご自動車オーバーホール事業	はしご自動車をオーバーホールする事によって長寿命化を図り、車両更新に比べ経費の削減となる。	更新時費用約 210,000千円 オーバーホール 21,708千円	3,643千円

(記載要領)

- 1 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 2 「主な実績数値（出来高数値等）」、「行革効果」については、出来るかぎり数値化した客観的な指標を記載すること。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

笠置町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目							
小規模市町村支援		施設等修繕事業							
事業着手前									
課題・現状	当町管理の庁舎をはじめとする公共施設や公用車等については、使用していくと少なからず経年劣化が進むが、それを最小限に留め、安全かつ快適に使用し続けるためには、メンテナンスや修繕等が必要となる。								
事業概要	庁舎等をはじめとする公共施設の管理上必要な点検等を実施するなかで実態把握に努め、本年度では、公用車の修繕、庁舎や産業振興会館の修繕、老人福祉施設や保育所等の修繕並びに消防施設等の修繕を行った。経年劣化を最小限に留めることにより、長く安全に使用することができると思う。つまり、効果的な施設等の維持管理を行うことにより施設の改修を遅らせ、施設に係る総合的な費用の抑制を図ることができ、結果歳出抑制を図る。								
期待される事業効果等	庁舎等をはじめとする公共施設や公用車等の整備等に当たっては、これまでも必要最小限度に留めたため、それに係る維持メンテナンス費用を低くすることが出来ている。現在も様々な面で経費削減を行っているが、従前より施設の整備段階からこうした維持経費を重視してきた部分が歳出削減に生きていると考える。本年度も必要箇所のみ改修等を実施することにより、経費の縮減を図りつつ、施設等の長寿命化を図りたい。								
事業実績									
取組状況	本年度では、法定点検項目や庁舎をはじめとする公共施設等の管理上必要な点検等を実施するなかで実態把握に努め、公用車の修繕、庁舎や産業振興会館の修繕、老人福祉施設や保育所等の修繕及び消防施設等の修繕を行った。その他、点検保守等のメンテナンスを専門知識に長けた業者に外部委託することで長期的な管理経費の削減に繋げるとともに、効果的に施設等の維持運営管理を行うことにより、施設の長寿命化を図った。								
主な実績数値 (出来高数値等)	庁舎電話工事、福祉施設雨樋等修繕、産業振興会館昇降機修繕・ガス湯沸器修繕、消防ポンプ修繕 他								
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	必要箇所のみ改修を実施することにより、経費の縮減を図りつつ、施設等の長寿命化を図ることができた。						
行革効果									
行革効果の考え方	必要箇所のみ改修工事により公共施設の長寿命化と経費の削減効果を図る。								
年度	H26								
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	10,900								
本事業の実績額(b)	1,294								
行革効果(a)-(b)	9,606								

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。

京都市行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

笠置町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目	
小規模市町村支援		町道・林道維持事業	
事業着手前			
課題・現状	笠置町における町道・林道の整備状況は、道路幅員の狭小が目立っており、現在の自動車の普及率の上昇、また近年住民の健康対策として自主的に行われているウォーキングにより、自動車運転者、歩行者共々安全な通行の確保が望まれている。		
事業概要	地域生活に密着した町道・林道については、利用していくことで年々経年劣化等が進むが、常に良好な状態に保つように維持・修繕し、一般交通に支障のないように努めなければならない。 本年度では、町道羽根田2号線をはじめとする道路等の除草工事や路面補修等を実施し、道路等の快適性や安全性等の確保を図り、災害の軽減及び長期的な維持管理経費の縮減を図った。		
期待される事業効果等	地域生活に密着した町道・林道については、利用していくことで年々経年劣化等が進むが、日常的な点検作業や除草及び補修事業等を通じて良好な状態に保つことで、いつでも安全に安心して利用できるようにするとともに、道路施設の長寿命化が図れる。		
事業実績			
取組状況	地域生活に密着した町道・林道については、利用していくことで年々経年劣化等が進むが、常に良好な状態に保つように維持・修繕し、一般交通に支障のないように努めなければならない。そのために町内巡回を実施し、町道・林道の状況を把握することにより、事後的な修繕から予防的な修繕として事業を実施し災害の軽減及び長期的な管理経費の削減を図るものである。 26年度については、町内7路線他の除草及び側溝清掃等を実施することにより、道路の安全性や快適性等の確保を図った。		
主な実績数値 (出来高数値等)	<ul style="list-style-type: none"> ・林道三国越線・切山線除草業務 三国越線：(L=2.382km、A=4,764㎡)、切山線：(L=1.977km、A=3,954㎡) ・林道横川線除草及び側溝・路面清掃業務 除草：(L=4.273km、A=8,546㎡)、路面清掃：(L=4.273km、A=4.273㎡)、側溝清掃：(L=300m+L=127m(横断))=427m ・町道笠置～有市線他道路除草工事 除草(機械)A=1762.1㎡、除草(人力)A=1252.8㎡、側溝清掃L=350.0m ・町道羽根田2号線道路除草工事 除草(機械)A=811.0㎡、除草(人力)A=2,045.0㎡、側溝清掃L=116.0m、集水柵清掃6箇所 ・町道切山線路面・側溝清掃及び除草工事 除草(機械)A=80.0㎡、路面清掃A=60.0㎡、側溝清掃L=50.0m ・笠置広岡線漏水修繕工事 L=5.0m ・峠阪地内里道等小修繕工事 水路改修L=27.0m、水路清掃L=20.0m、里道修繕A=15.5㎡ ・有市地内水路蓋及び擁壁等修繕 L=8.0m ・奥田線維持修繕附帯工事 L=3.0m ・小規模災害復旧工事 L=2.5m+L=3.0m=5.5m 		
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	全面改修ではなく、必要箇所のみでの改修を実施することにより、経費の縮減を図りつつ、安心・安全な町道・林道の維持を図ることができた。
行 革 効 果			

行革効果の考え方	全面改修でなく計画的にかつ必要箇所のみを実施することにより、施設の長寿命化と経費の節減を図る。								
年度	H26								
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	6,874								
本事業の実績額(b)	5,650								
行革効果(a)-(b)	1,224								

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

笠置町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目							
小規模市町村支援		町道・林道維持事業(地元管理)							
事業着手前									
課題・現状	笠置町における町道・林道の整備状況は、道路幅員の狭少が目立っており、現在の自動車の普及率の上昇、また近年住民の健康対策として自主的に行われているウォーキングにより、自動車運転者、歩行者共々安全な通行の確保が望まれている。								
事業概要	町道の草刈り作業を地区住民(飛鳥路区)に依頼することにより、交通に支障のある箇所は複数回実施するなど、地域のニーズに合った管理がなされる。								
期待される事業効果等	地区住民に依頼することにより、地域のニーズに合った管理ができるとともにコスト削減にも繋がる。								
事業実績									
取組状況	飛鳥路区と町内を連絡する潜没橋は木津川の増水により年間4～5回通行止めとなる。通行止めの際の迂回路として本町道が重要路線となる。本路線は、幅員狭小であり草木が繁茂すると通行に支障をきたす。このような状況に陥る前に年に2回、地元区で除草及び町道の維持管理を実施し、安心・安全な通行を図った。								
主な実績数値 (出来高数値等)	町道有市柳生線除草作業 2.2km×1.0m								
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	地元地区に管理を依頼することにより、地域のニーズに合った管理ができ、かつコスト削減にも繋がった。						
行革効果									
行革効果の考え方	地元地区に維持管理を委託することにより、地域のニーズに合った管理作業が出来るとともに、かつ設計額より約20%の経費節減が図れた。								
年度	H26								
本事業を行わなかった 場合に係る経費等(a)	190								
本事業の実績額(b)	150								
行革効果(a)-(b)	40								

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

笠置町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目			
小規模市町村支援		町営住宅管理事業			
事業着手前					
課題・現状	現在笠置町の公営住宅は、建築してから相当年数が経っており、入居者等から住宅の建て替え等の要望はあるが、本町の財政状況では老朽住宅の建て替えは困難であるため、今後も安全面を最優先に必要な部分改修の必要性が生じている。				
事業概要	建築後相当年数が経過している当町の町営住宅は、所々修繕が必要となっている。住宅の実態把握に努め、安心・安全の観点から本年度も、緊急性の高い水回りやガス設備等の修繕を中心に実施し、施設の長寿命化を図るとともに、長期的な経費の削減を図る。				
期待される事業効果等	住宅の建て替えを行うには財政負担が大きすぎるため、緊急性の高い箇所の維持修繕を実施することで、入居者に快適な住宅環境の維持・提供を図るとともに、施設の長寿命化、長期的な経費の削減を図る。				
事業実績					
取組状況	町内にある公営住宅については、建築後相当年数が経過し老朽化が進んでいる。しかし、新たな建て替えや大規模修繕を行うには財政負担が大きすぎるため、住宅の実態把握に努め、安心・安全の観点から必要な維持修繕を進めるとともに、予防的な改修を進め施設の長寿命化を図り、長期的な経費の削減を図った。				
主な実績数値 (出来高数値等)	町内にある町営住宅のうち、奥田団地修繕4戸・改修5件、有市団地修繕6戸・改修7件で和室床改修、風呂釜改修・ドア、廊下修理、風呂ドア修理及び手すり設置等の実施				
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	補修工事等により住宅の長寿命化が図れた。		
行革効果					
行革効果の考え方	建替費4億3千9百万円、残存年数が7年から12年の住宅41戸を長寿命化により40年に延長する。				
年度	H26				
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	11,762				
本事業の実績額(b)	1,798				
行革効果(a)-(b)	9,964				

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

笠置町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目			
小規模市町村支援		運動公園住民共同管理事業			
事業着手前					
課題・現状	本町では、定員適正化計画に基づき職員の定員管理を実施し、職員の絶対数が少ない中で適正配置に努め、住民サービスの向上と行政需要の増加への対応してきた。今後も職員数の増加をできるだけ抑制し、各部門の類団比較を参考にしながら適正配置に努める必要がある。				
事業概要	子どもから大人までが生涯にわたってスポーツを親しむための施設として設置した運動公園は、生涯スポーツ並びに地域住民のコミュニケーションの場として利用されている。その施設の維持管理をNPO法人へ委託することにより、長期的な施設の維持管理経費の削減を図った。				
期待される事業効果等	維持管理経費の削減が図られるとともに、多様化する住民ニーズに対応するための人員の確保が図られる。				
事業実績					
取組状況	地域住民が、子どもから大人まで生涯にわたってスポーツを親しむための施設として設置している運動公園の維持管理をNPO法人へ委託することにより、長期的な施設の維持管理運営費の削減を図った。				
主な実績数値 (出来高数値等)	管理委託料 1,490千円				
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	維持管理のため職員を1人配置した場合6,530千円必要となるため		
行革効果					
行革効果の考え方	運動公園管理業務として職員を配置した場合の人件費と比較 [単位:千円]				
年度	H26				
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	6,530				
本事業の実績額(b)	1,490				
行革効果(a)-(b)	5,040				

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名 笠置町(相楽東部広域連合)

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分	事業名・実施項目								
広域連携事業支援	笠置小学校施設長寿命化事業								
事業着手前									
課題・現状	相楽東部2町1村(笠置町・和東町・南山城村)は近隣市町の大規模開発の取り残しから、特に京都府南部の都市化と正反対に若年層の急激な流出や少子化の波を受け過疎・高齢化が進む自治体となり、本来の自治行政が平常化しにくく、特に住民サービス関わるところでスケールメリットを活かせる分野において、2町1村が連携・連合を図りつつ、住民負担を少しでも軽減、効率的な公共サービスが提供できるよう取り組んでいる。								
事業概要	昭和58年度に竣工された笠置小学校は、年々経年劣化が進み安全かつ快適に使用し続けるためにはメンテナンスや修繕等が必要となります。本年度では校舎階段床張り替え、グラウンド整備並びにガスメータ及び集合装置等の修繕を実施し、施設の長寿命化等を図るとともに、長期的な経費の削減を図る。								
期待される事業効果等	建築後相当年数が経過している笠置小学校は、年々経年劣化が進んでいますが、日々のメンテナンスや修繕事業等を実施することで、安心・安全な学校づくりに寄与するとともに施設の長寿命化を図ることができると考えている。								
事業実績									
取組状況	建築後約30年目を迎える笠置小学校は、年々経年劣化が進み安全かつ快適に使用し続けるためにはメンテナンスや修繕等が必要となる。本年度では校舎階段床張り替え、グラウンド整備並びにガスメータ及び集合装置等の修繕を実施し、施設の長寿命化を図るとともに、長期的な経費の削減を図った。								
主な実績数値 (出来高数値等)	・小学校グラウンド整備1,700㎡、小学校校舎階段・床修繕44.5㎡及び小学校ガスメータ2個及び集合装置2台他修繕								
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	必要箇所のみ改修等により施設等の長寿命化と経費の削減効果を図れた。						
行革効果									
行革効果の考え方	必要箇所のみ改修等により施設等の長寿命化と経費の削減効果を図る。[単位;千円]								
年度	H26								
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	4,312								
本事業の実績額(b)	1,075								
行革効果(a)-(b)	3,237								

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名 笠置町(相楽中部消防組合)

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目			
広域連携事業支援		相楽中部消防組合はしご自動車オーバーホール事業			
事業着手前					
課題・現状	当該はしご自動車は、平成8年に取得し26年度で18年を経過する車両である。点検・整備には万全を期しているが、長期使用による性能低下等が見受けられる。消防力を維持し住民の安心・安全を守るため、改善の必要に迫られている。				
事業概要	長期使用により性能低下し安全性に欠けた車両をオーバーホールすることにより、性能を回復させ安全・確実性を保持する。オーバーホールとは、梯体、油圧装置、電気系統等、全ての部品を分解し消耗品交換、歪み補正、締め付け調整を行い、再度組み直す作業をするもので、潜在的不良箇所の発見、修正ができ、機能、性能が回復するものである。				
期待される事業効果等	26年度に更新した場合は、多額の費用を要することになり、財政を圧迫することになる。26年度にオーバーホールを実施する事により、6年間使用期限を延長する事ができるため、車両の長寿命化が図れ、住民の安心・安全を守るための消防力の維持及び財政への負担軽減の効果が期待される。				
事業実績					
取組状況	年2回の構成市町村(木津川市及び相楽郡2町1村(笠置町・和東町及び南山城村)との担当者会議にて、市町村担当者及び当消防本部担当者と協議を行い、車両更新、機器更新の計画を作成、また、講習等のアンケートで出てきた消防署への要望等を考慮し、より地域事情にあった効果的な更新計画を作成し、また、有利な特定財源等を折り込み、構成市町村の負担の軽減を図り、効率が良い事業を実施できるよう取り組んでいる。				
主な実績数値 (出来高数値等)	はしご自動車 更新費用約210,000千円(更新時見積) オーバーホール費用21,708千円				
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	本計画により、はしご自動車車両の長寿命化が図れ、更新計画を6年後にする事ができた。その結果、消防力の維持と、組合構成市町村の財政負担を軽減し、持続的、安定的な財政運営の構築が図れたため。		
行革効果					
行革効果の考え方	本事業は木津川市及び相楽郡東部2町1村(笠置町・和東町及び南山城村)で構成する一部事務組合で消防業務を行うものであり、1市2町1村の負担総額と当町における事業費(負担金等)との差額が行革効果となる。[単位:千円]				
年度	H26		笠置町		
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	210,000	左のうち	4,063		
本事業の実績額(b)	21,708		420		
行革効果(a)-(b)	188,292		3,643		

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。